

富田林市 中長期財政シミュレーション

本市では、「財政の見える化」の取り組みの一つとして、持続可能な行財政運営の推進に役立てるため、また、人口減少・少子高齢化の進展や公共施設の老朽化対応等がもたらす行財政への影響や、広域連携などにつき、より中長期的な観点から検討することから、大阪府の支援を受け、令和7年度～21年度まで15年間の「中長期財政シミュレーション」を作成しました。

本シミュレーションの前提

- ・本シミュレーションにおける推計結果については、一定の仮定を元に長期間の推計を行っていることから、実際の財政収支とは必ずしも一致するものではありません。
- ・本シミュレーションには、行財政改革に基づく将来的な効果額を反映していません。
- ・本シミュレーションで見込む将来的な経費は試算上のものであり、市として実施の決定をしたものではありません。

1. 財政シミュレーションの試算方法①

- 令和6年度決算（普通会計）をベースに15年間推計（令和7年度～21年度）
- 人口推計に連動する費目は、社人研将来推計人口（R5推計）と連動
- その他、人口と直接連動しない費目は、近年（原則、直近の3か年）の増減率や平均値などから試算

本試算を作成するにあたって設定した、**歳入に関する仮定**は以下のとおりです。

| 主な項目 | 仮定 |
|-------------------|---|
| 1. 市税 | ・市民税は、年齢区分に応じた直近の決算額を基準に、今後の人口減少の影響や、名目GDP成長率(内閣府試算:過去投影ケース、以降同じ)を反映。なお、定額減税による減収については反映しない(交付金も同じ) ・固定資産税・都市計画税は、評価替えを考慮し、過去の増減率から算出 |
| 2. 地方譲与税・各種交付金 | ・地方消費税交付金は、直近の交付額に名目GDP成長率を反映 ・法人事業税交付金は、過去3年間の平均値に名目GDP成長率を反映した数値を基準とし、人口及び従業員数の変動を反映 ・他の交付金等は、直近の決算額を基準とし、据え置き ※経済センサス活動調査(R3)より |
| 3. 地方交付税 | ・普通交付税(臨財債含む)は、直近の決算額にシミュレーションに基づく各年度の扶助費及び介護、後期高齢者医療特別会計の増加分を反映 ・特別交付税は、直近の決算額を基本とし、個別項目を調整 |
| 4. 国・府支出金 | シミュレーションに基づく各年度の費目別歳出額に、直近の国・府支出金の割合を乗じて算出 |
| 5. 繰入金 | 新庁舎建替事業等による特定目的基金の取崩については個別に計上、また、普通建設事業に係る経常的な特定目的基金の取崩は直近の決算額で繰入とする |
| 6. 地方債 (臨財債除く) | シミュレーションに基づく各年度の普通建設事業費等に、直近の決算額における地方債の割合を乗じて算出。ただし、新庁舎建設事業等については個別に計上 |
| 7. その他歳入 | 分担金・使用料等は、令和6年度決算額で据え置き。ただし、R6給食無償化による収入減を増とする |

1. 財政シミュレーションの試算方法②

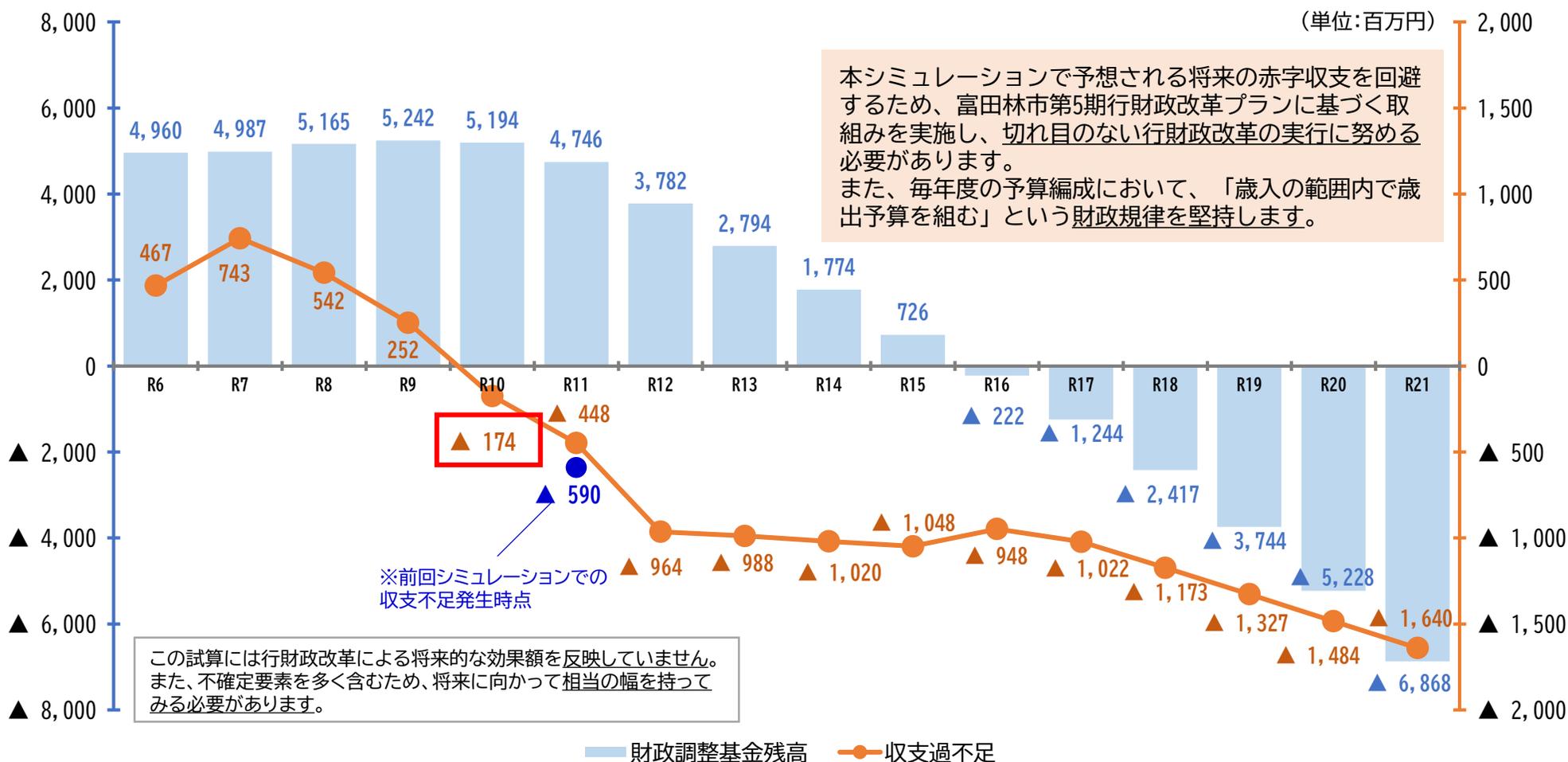
本試算を作成するにあたって設定した、**歳出に関する仮定**は以下のとおりです。

| 主な項目 | 仮定 |
|------------|---|
| 1. 人件費 | ・直近の決算額に各年度の賃金上昇率(過去投影ケース:内閣府試算、以降同じ)を4年間乗じ、以降は横置きとする |
| 2. 扶助費 | 直近の決算額に、直近3年間の決算額から算出した伸び率を4年間乗じ、以降は横置きとする |
| 3. 公債費 | 新発債は20年定時償還(元利均等)とし、利率はR7.9月の財政融資資金貸付金利による |
| 4. 物件費 | 直近の決算額に、各年度の消費者物価上昇率(過去投影ケース)を反映 |
| 5. 繰出金 | ・国民健康保険事業特別会計への繰出金は、直近の決算額を基準に、75歳未満の推計人口を乗じて算出 ・後期高齢者医療事業特別会計への繰出金は、直近の決算額を基準に、75歳以上の推計人口を乗じて算出 ・介護保険事業特別会計への繰出金は、直近の決算額をベースに、府内全体の介護給付費総額の推計値の変動率を乗じて算出 |
| 6. 積立金 | 財政調整基金積立金は前年度が黒字の場合、収支差額の1/2を見込む。ただし、市債の繰上償還に要する財源部分を除く |
| 7. 普通建設事業費 | ・直近の決算額を基準として各年度の消費者物価上昇率を乗じたものに、新庁舎建設事業、金剛中央公園・多機能複合施設整備、(仮称)こども・子育てプラザ(東施設)整備等の各個別事業を上乗せして算出 |
| 8. その他歳出 | 維持補修費は、直近の決算額に消費者物価上昇率を乗じて算出 補助費等は、直近3年間の決算額から算出した伸び率を乗じて算出 |

2. 収支と基金残高の見通し

本市の令和7～21年度の収支及び財政調整基金の推移は、人口減少による税収減、社会保障経費の増のほか、金利上昇、人件費・物価上昇に伴う継続的な物件費等の増などにより、令和10年度から決算が赤字(=収支不足が生じる)となる推計結果となりました。

収支不足が生じた場合は財政調整基金を充当しています



3. シミュレーション結果の詳細

(単位:百万円)

| 区 分 | R6(決算) | R7 | R8 | R9 | R10 | R11 | R12 | R13 | R14 | R15 | R16 | R17 | R18 | R19 | R20 | R21 |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 歳 入 合 計 | 47,467 | 49,912 | 52,974 | 50,437 | 51,816 | 51,368 | 48,950 | 48,929 | 48,927 | 48,927 | 49,018 | 48,924 | 48,896 | 48,876 | 48,857 | 48,837 |
| 市税 | 13,195 | 13,707 | 13,781 | 13,815 | 13,737 | 13,650 | 13,561 | 13,469 | 13,368 | 13,266 | 13,162 | 13,050 | 12,924 | 12,796 | 12,666 | 12,534 |
| 地方交付税(臨財債含む) | 9,196 | 9,125 | 9,315 | 9,547 | 9,935 | 10,065 | 10,200 | 10,313 | 10,400 | 10,488 | 10,579 | 10,678 | 10,769 | 10,871 | 10,975 | 11,081 |
| 交付金・地方譲与税等 | 4,182 | 3,736 | 3,808 | 3,863 | 3,870 | 3,872 | 3,875 | 3,878 | 3,876 | 3,875 | 3,872 | 3,866 | 3,861 | 3,854 | 3,848 | 3,840 |
| 国・府支出金 | 14,992 | 15,313 | 15,970 | 17,120 | 18,044 | 18,348 | 17,305 | 17,315 | 17,321 | 17,327 | 17,333 | 17,340 | 17,342 | 17,345 | 17,349 | 17,353 |
| 地方債 | 1,367 | 3,037 | 4,316 | 1,817 | 2,112 | 1,806 | 869 | 878 | 886 | 895 | 904 | 913 | 922 | 932 | 941 | 950 |
| 諸収入 | 3,212 | 3,073 | 3,074 | 3,074 | 3,074 | 3,075 | 3,075 | 3,076 | 3,076 | 3,076 | 3,168 | 3,077 | 3,078 | 3,078 | 3,078 | 3,079 |
| 繰越金、繰入金 | 1,323 | 1,921 | 2,710 | 1,201 | 1,044 | 552 | 65 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 歳 出 合 計 | 47,000 | 49,169 | 52,432 | 50,185 | 51,990 | 51,816 | 49,914 | 49,917 | 49,947 | 49,975 | 49,966 | 49,946 | 50,069 | 50,203 | 50,341 | 50,477 |
| 人件費 | 7,623 | 7,574 | 7,786 | 7,895 | 7,877 | 7,877 | 7,877 | 7,877 | 7,877 | 7,877 | 7,877 | 7,877 | 7,877 | 7,877 | 7,877 | 7,877 |
| 扶助費 | 15,553 | 16,277 | 17,057 | 17,897 | 18,801 | 18,801 | 18,801 | 18,801 | 18,801 | 18,801 | 18,801 | 18,801 | 18,801 | 18,801 | 18,801 | 18,801 |
| 公債費 | 2,412 | 2,233 | 2,198 | 2,206 | 2,368 | 2,449 | 2,510 | 2,399 | 2,340 | 2,278 | 2,179 | 2,068 | 2,124 | 2,180 | 2,238 | 2,295 |
| 建設事業費(災害復旧含む) | 2,723 | 5,043 | 6,842 | 3,537 | 4,222 | 3,983 | 1,899 | 1,918 | 1,937 | 1,957 | 1,976 | 1,996 | 2,016 | 2,036 | 2,057 | 2,077 |
| 物件費 | 5,769 | 5,847 | 6,099 | 6,253 | 6,249 | 6,309 | 6,382 | 6,442 | 6,503 | 6,564 | 6,626 | 6,688 | 6,751 | 6,815 | 6,879 | 6,944 |
| 補助費等 | 4,828 | 4,721 | 4,721 | 4,721 | 4,700 | 4,700 | 4,700 | 4,700 | 4,700 | 4,700 | 4,700 | 4,700 | 4,700 | 4,700 | 4,700 | 4,700 |
| 繰出金 | 6,270 | 6,300 | 6,397 | 6,442 | 6,487 | 6,533 | 6,578 | 6,609 | 6,615 | 6,620 | 6,626 | 6,631 | 6,611 | 6,602 | 6,593 | 6,583 |
| 積立金等 | 1,822 | 1,174 | 1,332 | 1,234 | 1,286 | 1,164 | 1,167 | 1,171 | 1,174 | 1,178 | 1,181 | 1,185 | 1,189 | 1,192 | 1,196 | 1,200 |
| 収 支 過 不 足 | | 743 | 542 | 252 | -174 | -448 | -964 | -988 | -1,020 | -1,048 | -948 | -1,022 | -1,173 | -1,327 | -1,484 | -1,640 |
| 財 政 調 整 基 金 残 高 | 4,960 | 4,987 | 5,165 | 5,242 | 5,194 | 4,746 | 3,782 | 2,794 | 1,774 | 726 | -222 | -1,244 | -2,417 | -3,744 | -5,228 | -6,868 |

※歳入の「繰入金」欄について、財政調整基金からの繰入は含まず、収支不足が生じた際に財政調整基金の繰り入れを行っている。

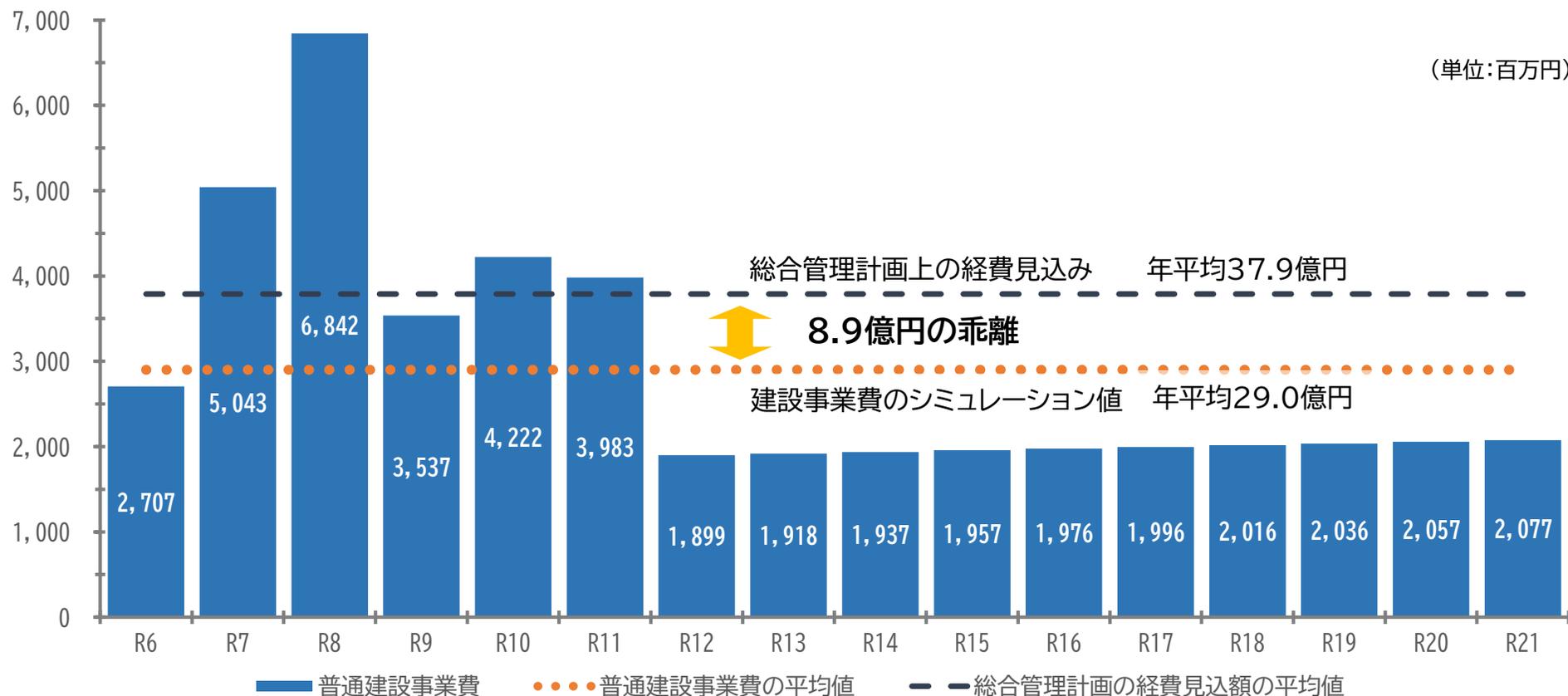
・歳入: 社会保障費の増に伴い地方交付税が増加する一方で、人口減により市税は減少傾向。また、新庁舎建設事業等により、令和7～11年度は地方債の発行や基金の取崩に伴い、一時的に歳入総額が増加しています。

・歳出: 社会保障経費の増加や金利の上昇、物価上昇により増加傾向。また、建設事業費は令和11年度まで高い水準で推移しています。

4. 留意事項(建設事業費に基づく分析)

一斉に老朽化する公共施設等への対応により、普通建設事業費は今後確実に増加することが見込まれるものの、本試算ではこうした影響をすべて反映していません。

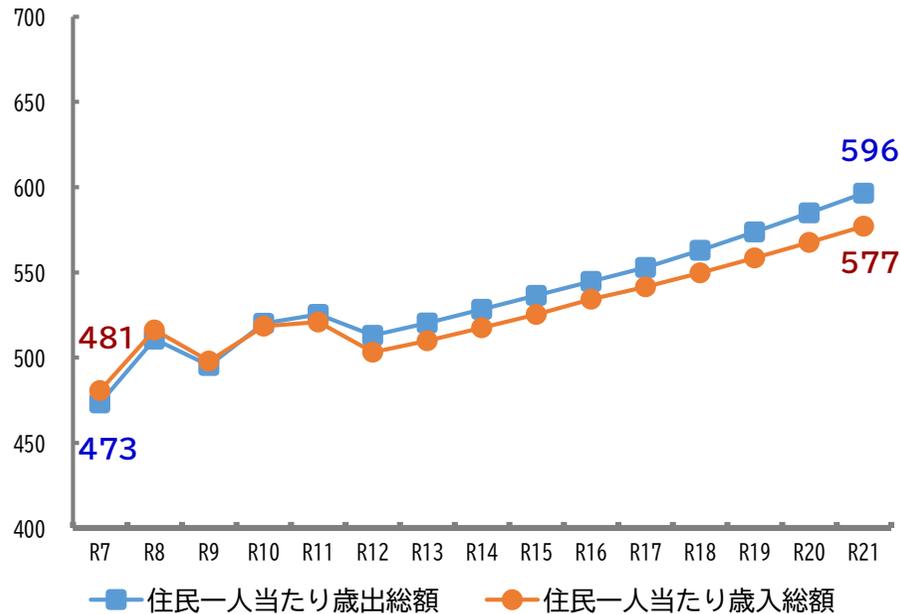
本試算では普通建設事業費を毎年約29.0億円と見込んでいますが、本市が公表している公共施設等総合管理計画(平成28年3月策定・令和6年3月改訂)では、上水道・下水道を除く公共施設やインフラに長寿命化対策を実施して更新した場合は、40年間に1519.9億円、1年あたり約37.9億円の経費が必要と見込んでおり、施設の総量最適化や長寿命化を進める必要があります。財政収支への影響に留意が必要です。



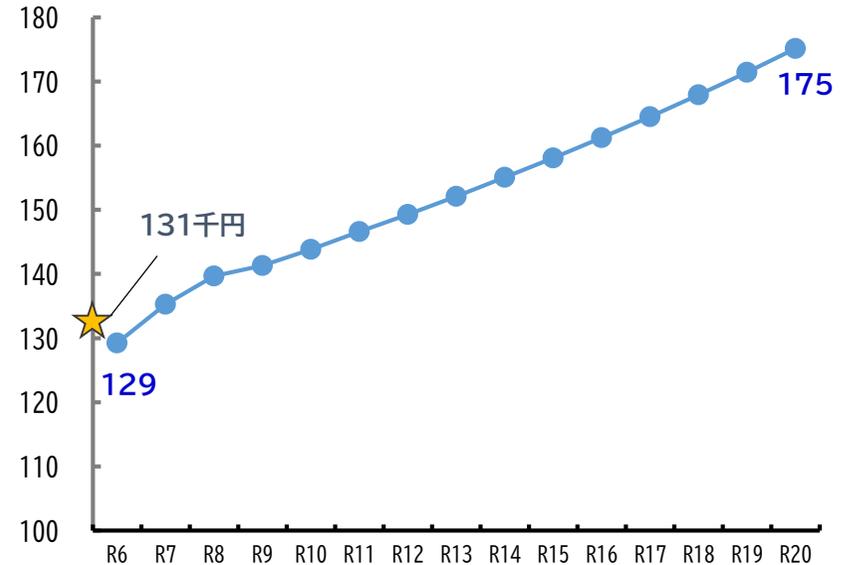
5. 留意事項(住民一人当たりコストに基づく分析)

予算規模の増および人口減少に伴い、一人当たり歳入・歳出総額はいずれも増加していきます。歳出のうち、行財政運営の効率性と関係性の高い「人件費・物件費」を見ると、現時点では同規模自治体の全国平均値よりも下回る結果となりました。ただし、将来的には人件費・物件費の増、人口減少により、一人当たりの人件費・物件費は増加していく見込みとなることから、引き続き、切れ目のない行財政改革が必要となります。

【住民一人当たり歳出総額・歳入総額】 (単位:千円)



【住民一人当たり人件費・物件費の比較】 (単位:千円)



★ 人口10~15万人都市の全国平均値(R4)
 ※全国平均値の人口15~20万人都市は財政状況資料集の区分IVより抽出。